陶板複製画だから触れます、撮ってもいい！大塚国際美術館

東京都内には１００を超える美術館があるという。世界の名画を集めた企画展も次々に催されており、美術館をはしごしていると各国の美術館を巡っているような気分になる。

徳島県鳴門市にも、「世界の美術館巡りの体験を」と謳った美術館がある。

大塚国際美術館。ご存じの方も多いだろう。世界の名画を特殊な陶板技術によって忠実に再現した「陶板名画美術館」として知られる。

大塚グループが創立７５周年記念事業として１９９８年３月に開館。２０年の節目を迎える今年は記念イベントも多く開催され、格別のにぎわいを見せている。近年の年間入館者数３８万人は、徳島県人口の半数に匹敵する。地方の美術館としてトップクラスの数字だろう。

広大な展示スペースに２５カ国１９０の美術館が所有する絵画の複製約千点が並ぶ。ミケランジェロの天井画と壁画のあるシスティーナ礼拝堂そのものを再現した「システィーナ・ホール」＝写真＝では、１６㍍先の天井画を見上げながらの鑑賞となる。

このスケールの大きさと、陶板画という独自性が何よりの魅力だろう。企画のユニークさと、宣伝・広報戦略のうまさも美術ファンを引き付ける。

現在は、２０年記念事業として、ゴッホの「ヒマワリ」７点を一堂に展示する。「陶板画だからこそ、一堂にそろえることができ、徳島にいながら世界中に点在するヒマワリを鑑賞できる」と担当者は説明する。

遠足で訪れる小学生も多く、静まり返った他の美術館のような雰囲気はない。著作権や作品保護の観点から撮影不可という美術館が多い中、ここでは撮影も、作品に触れることもＯＫだ。絵画の中の人物に扮して記念撮影ができるコスプレコーナーもある。

都内では最近、ＳＮＳでの発信効果を狙って、作品撮影ができるコーナーを設ける美術館も目立つ。外国人を含めた観光誘客のツールとして、美術館を位置付ける流れが出ているようだ。親しみやすく、より楽しめる美術館を目指す、という点では一歩先を行く大塚国際美術館の挑戦から目が離せない。

徳島新聞社 東京支社長
高村千恵子

世界の名画を陶器に原寸大で焼き付けた美術館。
その一部には触ることもできる。
写真は、ミケランジェロの天井画と
壁画のあるシスティーナ礼拝堂を原寸大で
複製・展示した大ホール。